

7. 疾病別対応

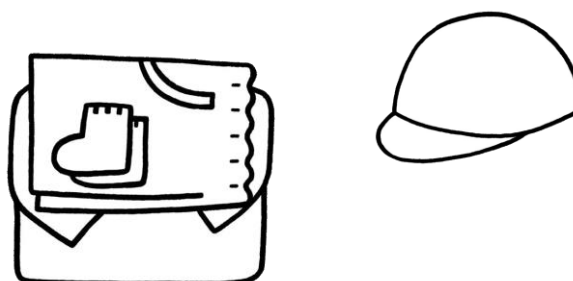
(1) 感染性胃腸炎（ノロウイルス、ロタウイルスなど）	
病原体	ウイルス（ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス。まれにアデノウイルス、エンテロウイルス等）
感染経路	接触感染、経口（糞口）感染 また、嘔吐物等の不適切な処理で、乾燥後微粒子として舞い上がり塵埃感染を起こす例もあります。
流行時期	冬場に多く発生するが、今は一年中発生します
潜伏期間	1～2日
症状	発熱、嘔気／嘔吐、下痢（黄色より白色調であることが多い。特にロタウイルスの場合顕著） <合併症>けいれん、肝炎、まれに脳症
予防方法	標準予防策＋接触感染予防策 ロタウイルスワクチン（任意接種）。生後6週より接種が可能となります。初回接種は生後14週6日までにを行うことが推奨されています。また生ワクチンなので、他の予防接種とのスケジュールに注意が必要です。
消毒方法	消毒薬は次亜塩素酸ナトリウム溶液が基本です。熱で消毒する場合は85℃以上で1分以上が必要です。
感染期間	症状のある時期がウイルス排泄期間のピークですが、その後も長期間にわたりウイルスを排泄することがあります。
登園基準	嘔吐・下痢等の症状が治まり、普通の食事ができること
集団保育において留意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬に流行する小児の胃腸炎はほとんどがウイルス性です。 ・ ロタウイルスは3歳未満の乳幼児が中心で、ノロウイルスはすべての年齢層で患者がみられます。 ・ 少量のウイルスでも感染するので、集団発生及び食中毒に注意します。 ・ 症状が消失した後もウイルスの排泄は2～3週間ほど続くので、便とおむつの取り扱いに注意します。また、まれにウイルスの排泄が1か月近くに及ぶこともあります。 ・ ノロウイルス感染症では嘔吐物にもウイルスが含まれます。嘔吐物の適切な処理が重要です。 ・ 食器等の消毒には熱湯（1分以上）や次亜塩素酸ナトリウムを用います。 ・ 食品は十分に加熱しましょう。

(2) 腸管出血性大腸菌感染症	
病原体	細菌（ベロ毒素を産生する大腸菌） 血清型により O157、O26、O111 等が多いですが、血清型で決まるものではなく、あくまでもベロ毒素の産生によります。
感染経路	接触感染、経口（糞口）感染
流行時期	夏季に多くみられますが、冬季にも発生します。
潜伏期間	3～8 日
症状	激しい腹痛、頻回の水様便、さらに血便。発熱は軽度 <合併症>溶血性尿毒症症候群、脳症（3 歳以下での発症が多い）
予防方法	標準予防策＋接触感染予防策 調理においては食品の十分な加熱、手洗いの徹底
消毒方法	消毒は低水準消毒薬でも効果があります。塩化ベンザルコニウム（逆性石けん）やアルコールを用います。
感染期間	便中に菌を排泄している間
登園基準	医師により感染のおそれがなくなると認められるまで。 感染症法による 3 類感染症であり、保健所の指示に従うこと。
集団保育において留意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> 菌量が少量でも感染するので、ヒト - ヒト感染も起こり得ます。 プールで集団発生が起こることがあります。低年齢児の簡易プールには十分注意します（塩素消毒基準を厳守）。 患者発生時には速やかに保健所に届け、保健所の指示に従い消毒を徹底します。



(3) インフルエンザ	
病原体	ウイルス（インフルエンザウイルス） A 型には、2009 年に新型として流行した H1N1、香港型 H3N2 などがあり種々の亜型が存在し、流行的広がりを見せるのは A 型と B 型です。
感染経路	飛沫感染、接触感染
流行時期	毎年 11 月下旬から 12 月上旬頃に始まり、翌年の 1～3 月頃に患者が増加します。地域によっては夏季に患者が発生することもあります。流行の程度とピークの時期はその年によって異なります。
潜伏期間	1～4 日（平均 2 日）
症状	突然高熱が出現し、3～4 日間続きます。全身症状（全身倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛）を伴う呼吸器症状（咽頭痛、鼻汁、咳嗽）。約 1 週間の経過で軽快します。 ＜合併症＞肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳症
予防方法	標準予防策＋飛沫感染予防策＋接触感染予防策 インフルエンザワクチン（任意接種） 。シーズン前に毎年接種します。6 か月以上 13 歳未満は 2 回接種。ワクチンによる抗体上昇は、接種後 2 週間から 5 か月まで持続します。 ワクチンを接種したからといってインフルエンザに罹患しないということはありません。
消毒方法	アルコールを基本とします。
感染期間	症状がある期間（発症前 24 時間から発病後 3 日程度までが最も感染力が強い）
登園基準	発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 3 日を経過するまで
集団保育において留意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗いの励行を指導しましょう。 ・ 加湿器等を用いて室内の湿度を高めに保ちます。 ・ 患者には集団生活復帰後も可能な限りマスクを着用してもらいます。 ・ 送迎者が罹患しているときは、送迎を控えてもらいましょう。どうしても送迎せざるを得ない場合は、必ずマスクを着用してもらいます。 ・ 咽頭拭い液や鼻汁からウイルス抗原を検出します（ただし発熱出現後半日以上経過しないと正しく判定できません）。 ・ 抗インフルエンザ薬を服用した場合、解熱は早いですがウイルスの排泄は続きます。 ・ 抗インフルエンザ薬の服用に際しては、服用後の見守りを丁寧に行ってください。

(4) 結核	
病原体	細菌…結核菌 抗酸菌の一種
感染経路	空気感染
流行時期	季節的な流行はない
潜伏期間	感染後 2 年くらいのうちに発病することが多いとされていますが、感染後、数年～数十年後に発病することもあります。
症状	肺結核では、初期の症状はカゼと似ていますが、せき、痰、発熱などの症状が長く続きます。また、体重が減る、食欲がない、寝汗をかく、などの症状もあります。BCG 未接種の乳幼児では重症結核（粟粒結核、結核性髄膜炎）になる可能性があります。
予防方法	空気感染予防策 BCG ワクチン
消毒方法	結核菌は紫外線で約 2～3 時間で死滅し、換気を行えば感染の危険は極めて弱くなるため、リネン類や部屋の壁等は通常の洗浄・清拭のみでよい。（食器も同様）
感染期間	喀痰の塗抹検査が陽性の間（喀痰に結核菌が検出される→咳で菌が排出される）
登園基準	医師により感染のおそれがなくなったと認められるまで。 感染症法による 2 類感染症であるため、 保健所の指示に従います。
集団保育において留意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部屋の換気を十分に行うことが必要です。 ・ 1 人でも発生したら保健所、嘱託医等と協議します。 ・ 排菌がなければ集団生活を制限する必要はありません。 ・ BCG 接種後 10 日以内に出現するコッホ現象に注意しましょう。



(5) 麻疹 (はしか)	
病原体	ウイルス…麻疹ウイルス
感染経路	空気感染・飛沫感染・接触感染
流行時期	季節的な流行はない
潜伏期間	10～12日
症状	<p>1) カタル期：38℃前後の高熱、咳、鼻汁、結膜充血、目やにがみられます。熱が一時下がる頃、コプリック斑と呼ばれる小斑点が頬粘膜に出現します。この時期が最も強い感染力です。</p> <p>2) 発疹期：一時下降した熱が再び高くなり、耳後部から発疹が現れて下方に広がります。発疹は赤みが強く、少し盛り上がっています。融合傾向がありますが、健康皮膚面を残しています。</p> <p>3) 回復期：解熱し、発疹は出現した順に色素沈着を残して消退します。</p> <p><合併症>中耳炎、肺炎、熱性けいれん、脳炎</p>
予防方法	<p>標準予防策＋空気感染予防策＋飛沫感染予防策＋接触感染予防策</p> <p>麻疹弱毒生ワクチン、麻疹風疹混合ワクチン（定期接種／緊急接種）</p> <p>1歳になったらなるべく早く麻疹風疹混合ワクチンを接種します。小学校就学前の1年間に2回目の接種を行います。</p>
消毒方法	アルコールや次亜塩素酸ナトリウムが有効です。
感染期間	発熱出現 1～2日前から発疹出現後の4日間
登園基準	解熱した後3日を経過するまで
集団保育において留意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> 入園前の健康状況調査において、麻疹ワクチン接種歴、麻疹既往歴を母子健康手帳で確認し、未接種、未罹患児にはワクチン接種を推奨します。入園後にワクチン接種状況を再度確認し、未接種であればワクチン接種を推奨します。 麻疹の感染力は非常に強く、1人でも発症したらすぐに入所児童の予防接種歴、罹患歴を確認し、ワクチン未接種未罹患児には主治医と相談するよう指導します。 接触後72時間以内にワクチンを接種することで発症の予防、症状の軽減が期待できます（緊急接種）。対象は6か月以上の子ども。 接触後4日以上経過し、6日以内であれば、筋注用ガンマグロブリン投与方法もあります。 児童福祉施設等における麻疹対策については「学校における麻疹対策ガイドライン」（国立感染症研究所感染症情報センター作成）を参考にします。 保健所より調査協力依頼があります。

(6) 頭シラミ	
病原体	シラミ…アタマシラミ
感染経路	接触感染（頭髪から頭髪への直接接触、衣服や寝具を介する場合もある）
流行時期	特に好発時期はありません
潜伏期間	10～14日
症状	小児では多くが無症状
予防方法	タオル・くしなどの共用を避け、衣類、シーツ、枕カバー、帽子等を熱湯で洗います。
消毒方法	温水（55℃以上）、10分間で死滅します
感染期間	産卵から最初の若虫が孵化するまでの期間は10日から14日
登園基準	駆除を開始していること
集団保育において留意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設では頭を近づけ遊ぶことが多く、伝播の機会が多くあります。 ・ 家族内でも伝播するので、同時に駆除することが重要です。